

# 令和8年度 宮城教育大学学校推薦型選抜

## 専攻別課題

### 【初等教育専攻】

#### 問題冊子

令和7年11月29日 午前9時45分 ~ 11時15分

#### 注意事項

1. 問題冊子は表紙を含めて3枚、資料は表紙を含めて5枚です。問題は全2問です。試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
2. 解答用紙は合計2枚です。問題の解答は、解答用紙の所定の欄に、必ず黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記してください。
3. 問1、問2の解答は、それぞれの解答用紙の行内に収まるように記入してください。
4. 問題冊子、資料、解答用紙に印刷不鮮明の箇所があった場合には申し出てください。
5. 解答の下書き用に、白紙のコピー用紙を2枚配付します。適宜活用してください。
6. 問題冊子、資料、下書き用のコピー用紙は回収しません。



### 問1

資料1はアメリカの哲学者デューイによる110年前の論文からの引用である。文章内でデューイは、小学校の教育は、「職業のための教育を第一のねらいにしている作業とは慎重に区別」することが必要だとしている。学校給食における配膳の「仕事」は子どもにとってどのような成長の機会になっているだろうか。具体的な事例を用いて述べなさい。

### 問2

資料2の記述を踏まえ、児童が「自動車はどうやって走っているのか」を学習するために、小学校教育においてどのような工夫や取り組みが有効だと考えるか、あなたの考えを具体的に述べなさい。

令和8年度 宮城教育大学学校推薦型選抜

専攻別課題

【初等教育専攻】

資 料



## 資料 I

「仕事」というのは、なんらかの種類の「せつせとやること」、つまり、子どもが机に座っているときに、いたずらしたり、ぼんやりしたりしていないようにするために、子どもにあたえられるなんらかの種類の課業を意味しているのではない。仕事という言葉によって、私が意味するものは、子どもがおこなう一種の活動であって、それが社会生活においていとなまれるある形態の作業を再現したり、ないし、それと対応しておこなわれたりするもののことである。当大学附属小学校\*においては、これらの仕事は、木片とさまざまな道具をつかう工作室作業によって、料理によって、裁縫によって、そしてまたここに報告される織物作業によって代表されている。

仕事の心理における根本的な要点は、仕事が経験の知的側面と実践的側面とのバランスをたもつという点である。一つの仕事としてみると、それは能動的なもの、またいいかえれば運動的なものである。それは身体的諸器官、すなわち眼・手などをとおして現われる。しかしながら、それはまた、実際的あるいは効果的にうまくおこなわれるようにするためには、材料の不断の観察と不断の計画および反省を要求するものである。こうした意味での仕事は、それゆえに、ある職業のための教育を第一のねらいにしている作業とは慎重に区別されねばならぬ。その差異の根拠は、仕事の目的はその仕事自体のうちにあるということ、すなわち、その目的が諸々の観念と、それらの観念が行動となって具体的に表現されたものとのあいだの不断の相互作用から生ずる成長のなかにあるのであって、外部的な効用のなかにあるのではないということである。

(翻訳語の言葉遣いを一部変更した)

\*シカゴ大学附属小学校

出典：

ジョン・デューイ (宮原誠一 訳) 『学校と社会』岩波書店, 2005, pp159-161.

John Dewey "The School and Society, revised edition" The University of Chicago Press, 1915.

## 資料 2

### ハーモニーとしての学習

学習とは、どこで生じている現象だろうか。多くの人がまず「頭の中」あるいは「脳」と考えるのではないだろうか。たしかに人が何かを学ぶとき、脳になんらかの変化が生じていることは間違いない。また人間の場合、脳なくしては、学習がそもそも不可能であることも自明である。それゆえ、学習という現象を理解するために、脳の中で生じている過程に注目し、その解明を試みることは不可欠である。この見方を全面的に否定する人はあまりいないだろう。しかし、それだけが学習という現象を捉える道筋ではないはずだ。あえて脳を中心におかない視点をとることで、学習の別の重要な側面を浮かび上がらせることができるのではないか。状況的学習論は、そうした発想で1990年代に登場した比較的新しい学習研究の立場である。

では「脳を中心をおかない視点」とはどのようなものだろうか。それについて説明する前に、自動車を例にして少し考えてみたい。「自動車はどうやって走っているのか？」と質問されたら、どのように答えるだろうか。すぐに思いつくのは、「エンジンが回転して走っている」という説明だろう。これは自動車が走るときに、もっとも中心的に機能しているもの、つまり現象の主要な原因に注目した答えである。もちろん間違っていない。自動車にエンジンがなければ走ることはできないし、エンジンの性能によって自動車の走りが大きく異なってくることも明らかである。

だが、「自動車はどうやって走っているのか？」という質問に対する答え方は、これだけではないはずだ。たとえばどんなに立派なエンジンがあったとしても、タイヤがなければ自動車は走らない。エンジンの回転をタイヤに伝えるメカニズムも必要だろう。ハンドルで方向転換できなければ、危なくて実際に道路を走ることはできない。こうした諸々のパーツを組み込む車体も不可欠である。これだけではない。必要なパーツがすべて揃い、きちんと組み立てられていたとしても、道路がそれなりに平坦でなければ自動車はまともに走れないだろう。また日本で自動車を走らせるなら、交通法規に従う必要もあるので、これに反したかたちで（たとえば時速200キロで）自動車を走らせることは簡単にはできない。大雪の日に普通の乗用車を高速道路で走らせることも難しいだろう。

このように考えてみると、「自動車はどうやって走っているのか？」という問いには、「エンジンが回転して走っている」という答えのほかに、「関係するすべてのパーツや状況がうまくかみ合うことで走っている」という答え方があることがわかる。あえて主要な原因に注目せず、その周囲で生じているさまざまな要因の絡み合い、つまり諸要因、諸状況の「ハーモニー」によって自動車の走りを説明する。これが状況的学習論の視点である。

この視点で、学習についてあらためて考えてみよう。もっとも主要なパーツである脳内の過程に分析を集中するのではなく、その周囲に広がるさまざまな要因や状況の結びつきに着目する。脳が分析から排除されることはないが、その位置づけは学習を生み出すさまざまな要因の一つとなる。より具体的に言えば、状況的学習論では、コミュニケーション、道具、制度、慣習、文化などが、学習の現場でどのように絡み合っているかが問題となる。このように現象のもっとも主要な原因ではなく、その周囲に生まれているハーモ

ニーの方にあえて注目する立場は「脱中心化 (decentering)」と呼ばれている。

### 仕立て職人が一人前になる過程

脱中心化のメリットは何か。状況的学習論の立場をとる研究者たちはさまざまな理由を挙げているが、もっとも重要なのは、さまざまな現場で生じている学習の仕組み（あるいは学習の失敗の仕組み）について、多くの具体的な理解を得ることができ、それが別の現場で新たに学習を生み出す際に、有益なヒントになるということだろう。たとえば文化人類学者のレイヴ (Lave, J.) は、西アフリカのリベリアで伝統的な仕立屋の工房を調査し、そこで働く徒弟が、とくにトレーニングを受けていないのに、数年のうちに職人として一人前になっていく過程を分析している。これは現場の学習のメカニズムの解明としても興味深く、またさまざまな現場で学習を生み出そうとする際に有用なヒントを提供するものだろう。

レイヴが仕立ての現場を長期にわたって観察して見出したのは、徒弟を含む職場全体の作業分担、つまり分業の仕組みが、徒弟にとって非常に効率のよい学習の機会を提供しているということであった。工房に入った徒弟には最初、ボタン付けやアイロンがけといった仕上げの仕事が割り振られる。ボタン付けは針と糸を使う仕事の初歩的なトレーニングとなり、またアイロンがけは、服を構成する布地の形や組み合わせ方を把握することが必要となる作業である。これらの作業は徒弟にとってちょうどいい仕立てへの入門カリキュラムとなるのである。これに加えて、この2つの作業は、どちらも失敗してもやり直しがきく。これによって工房は、初心者に仕事を任せる際のリスクを低く抑えることを実現している。

ボタン付けとアイロンがけなど仕上げの作業をしばらく続けたのち、徒弟はミシンで布地を縫い合わせる縫製の仕事に移る。この時点で徒弟はすでに針仕事の基本を身につけており、また布地がどのように組み合わせられて服が作られているのかを熟知している。このため、より高度な縫製の仕事への移行はスムーズになる。

縫製の仕事をしばらく続けると、最後に大きな布地から型紙に合わせて布を切り出す裁断の仕事に任せられるようになる。この仕事への移行も、縫製の段階で注意深く布地の形を観察しているため容易になる。この仕事をこなせるようになれば一人前の職人である。

このようにレイヴが観察したリベリアの伝統的な仕立屋では、分業のシステムが、そのまま職人養成のカリキュラムになっており、とくにトレーニングや研修をしなくても、効率的に徒弟を育てることができていた。このような学習を可能にする（あるいは困難にする）現場の「ハーモニー」を解明することが、状況的学習論の主要な課題である。

出典：

神原知美（編著）『算数・理科を学ぶ子どもの発達心理学 文化・認知・学習』（一部改編）  
ミネルヴァ書房, 2014. 25-28.

令和 8 年度宮城教育大学学校推薦型選抜

## 専攻別課題

### 【特別支援教育専攻】

## 問題冊子

令和 7 年 11 月 29 日 午前 9 時 45 分～11 時 15 分

#### <注意事項>

1. 問題冊子は表紙を含めて3枚です。試験開始の合図があるまでは問題冊子をひらいてはいけません。
2. 解答は、問題用紙とは別の解答用紙に記入してください。
3. 解答用紙は2枚です。問題の解答は、解答用紙の所定の欄に、必ず黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入してください。
4. 問題冊子・解答用紙の印刷に不鮮明な箇所があった場合には申し出てください。
5. 解答の下書き用に白紙の下書き用紙を2枚配付します。適宜活用してください。下書き用紙は回収しません。
6. 問題文中に、「○字以内」という字数提示がある場合、字数には句読点も含まれます。



パラリンピックなどの障害者スポーツでは、障害の種類や程度に応じて選手を分類し、公平な競争を実現する「クラス分け」を行うのだが、ここ最近このことに対する批判の声があるという。パラリンピックでは肢体不自由、視覚障害、知的障害の三つに分けられ、それぞれの障害に対応する細かな「クラス」が設定される。各障害の中でも能力差が出るため、選手はだいたい同じ能力の相手と競い合えるよう分けられている。例えば水泳では、泳法ごとに、自由形とバタフライと背泳ぎはS、平泳ぎはSB、個人メドレーはSMと分類した上で、身体障害の場合、1から10に、視覚障害は11から13に、知的障害は14にとクラスが分けられる。数字が小さいほど障害は重い。例えば平泳ぎで全盲の選手はSB11クラスとなる。

だが、このシステムはとても複雑で実際に個々の選手を評価するのに時間がかかることから、アスリートの中にはこのシステムが実際には機能していないと考える者もいる。あるアスリートは、評価が目視で行われ、担当者個々人の感覚がベースになっている、と話している。クラス分けの際に恣意(しい)的で非科学的な評価が行われていると指摘する声も出ている。より障害の重いクラスに入って競技でアドバンテージを得るため、システムを悪用しようとするアスリートが存在するともいわれていて、クラス分けをめぐる議論が続いている。

問1 公平な競争というものは、可能か、あるいは不可能か。それぞれの理由とともにあなたの考えを述べなさい。

問2 より公正な評価をするためにはどのような方法が考えられるか。あなたの考えを述べなさい。

以上の2点についてそれぞれ400字以内で述べなさい。

# 令和8年度 宮城教育大学学校推薦型選抜

## 集団面接

### 【初等教育専攻】

## 問題冊子

令和7年11月29日 午後1時00分 ~ 4時00分

#### 注意事項

1. 問題冊子は表紙を含めて3枚です。試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
2. 解答用の画用紙は合計3枚です。
3. 問題冊子に印刷不鮮明の箇所があった場合には申し出てください。
4. 下書き・メモ用に、白紙のコピー用紙を3枚配付します。適宜活用してください。問題冊子と下書き・メモ用のコピー用紙は回収しません。

## 令和8年度 宮城教育大学学校推薦型選抜

### 集団面接（初等教育専攻）

集団面接は3つの課題に分かれています。資料を読んで各課題に取り組んでください。

資料は、気象庁のデータを元に作成されたグラフです（全1ページ）。

#### 課題1（話し合い）

資料に示された日本や世界の気候変動を踏まえ、子ども達がこのような状況に対応していく力を身につけるにはどうすればよいか、話し合いをしてください。

#### 課題2（課題3の準備）

課題1を踏まえ、画用紙3枚に次のことをまとめてください。

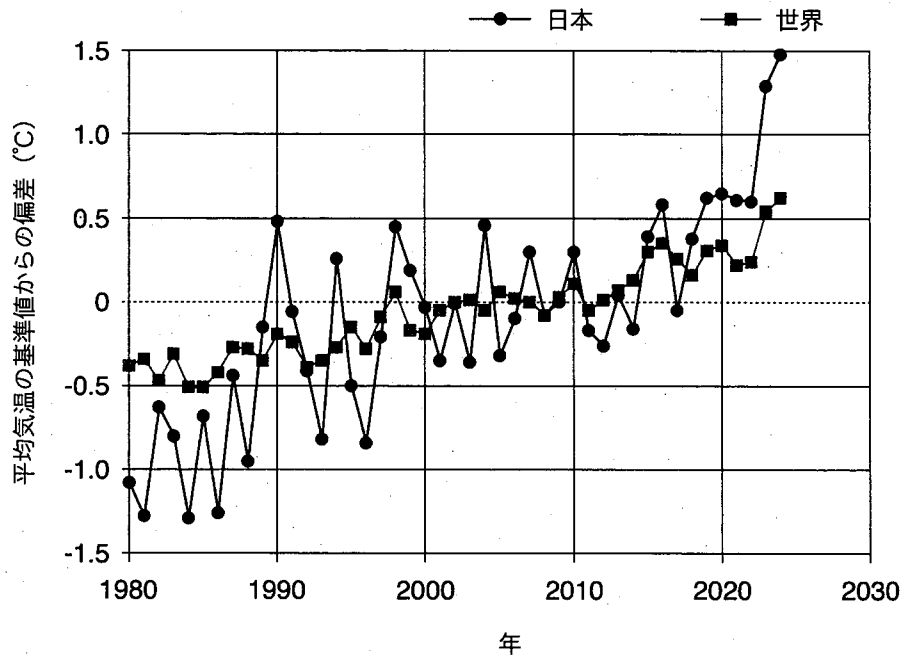
- 画用紙の1枚目を使って、課題1で話し合われた内容のポイントをまとめたうえで、自分の考えを書いてください。
- 画用紙の1枚目に書いた内容を踏まえ、あなたの考える子どもの理想像を画用紙の2枚目に書いてください。
- 画用紙の2枚目に書いた内容を踏まえ、あなたが小学校教員になったときにどのような具体的な取り組みや工夫をしていきたいか、画用紙の3枚目に書いてください。

#### 課題3（個人発表）

課題1と課題2でまとめた画用紙を用いながら、発表してください。

## 資料

1980年から2024年までの日本と世界の平均気温の推移を、基準値（1991～2020年の30年平均値）からの偏差として示したグラフ



気象庁のウェブサイト (<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/index.html>) のデータを元に作成

令和 8 年度宮城教育大学学校推薦型選抜

特別支援教育専攻  
集団面接課題



## 令和 8 年度 宮城教育大学 学校推薦型選抜

### 特別支援教育専攻 集団面接

試験時間:180分(休憩を含む)

特別支援教育の対象領域として、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱の5つがあります。この5つの障害のある子どもたちや大人たちは、日常生活や社会生活で様々なバリアを経験しています。そこで今回は、5つの障害領域と、災害と関連したテーマについて、討論してもらいます。

最近、各地で地震、津波、豪雨等自然災害が発生しており、自治体で避難所運営をはじめ防災・減災の対応体制の強化が図られています。避難者の中には障害のある人々も含まれており、避難所において障害のある人々を排除しない運営体制や環境整備が求められています。

別紙資料に、5つの障害のある避難者が使うことを想定した運営体制や環境整備が進められていないと思われる避難所の画像を記載しています。皆さんは、この画像の避難所の様子から、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱のそれぞれの障害領域の観点からどのようなバリアが生じると考えられるのか、それぞれの障害領域で生じうるバリアをどのように除去したらよいか、について討論してください。なお、上記以外の障害領域(例えば、発達障害や言語障害など)に関するバリアや除去方法については討論しないことにします。

出典(画像):日本経済新聞 2020年4月13日掲載(2025年9月19日閲覧)  
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO57990770T10C20A4CC1000/>

